



ブランチ通信 No 7

2020.8.1

この八月にブランチは3年目を迎えようとしています。また初めの志を確かめる時を頂きました。今まで、支えられましたこと、本当に感謝しています。

私はブドウの木、あなたたちは枝(Branch)です。人が私にとどまり、私もその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。 聖書-ヨハネ15:5-

コロナ禍の中、皆さまいかがお過ごしですか？

今年の梅雨も、各地で水害の恐怖を味わいました。いつもならば暑中見舞いを送る季節なのですが。

こちら金沢も、3月下旬からの感染拡大予防政策に伴い、学校が休みになったり、仕事の内容が変更になったり、急に日常が失われて行きました。「stay home」(ステイホーム)のキャンペーンで、今まで社会的にそれぞれの場所があった一人一人が、否応なしに家で、一緒にいる時間が増えました。

もちろんブランチの住人も例外ではありません。

けれど、こうした時間を過ごすことになった時に気が付いたことがあります。すむ人のこころの有様です。ある日カードゲームをしていると、その勝ち負けの悔しがり方や喜び方に、その人らしさが出てきて、自分の事も、「こんなに勝気だったんだ」と苦笑してしまいました。何気ない会話や、行動から今まで気が付かなかった他者や自分が見えてきました。

ホームとはなんでしょうか？家族とか家とか言われます。

ある人の動画のように、自宅のソファで愛犬と戯れながら、ゆっくりとお茶を飲むことがステイホームだったのでしょうか？まず、頭に浮かんだのは共に暮らす家族の顔だったのではないのでしょうか？

また、ただ血縁の家族が集まるという意味だけではないことも、実感できたように思います。人の生活は複雑で、家の中だけではなく、社会は、多様な必要を引き受けながら回っています。今回の突然の日常の喪失は、今まで社会で支えてきた機能を急にそれぞれの家族が家庭に持ち込まざる得なくなりました。急な変化にバランスが崩れ、社会的には虐待やDVの増加が報道され、心が痛みました。

ホームというものが、家族がいるから、家があるからできるという単純なものではなく、社会とかかわる一人一人のこころの有様に気付かされながら、受け入れ、時間をかけて築く場所。そんな気がしています。

ブランチは、皆なに励まされながら、2年が過ぎようとしています。

3年目のブランチも、どうぞよろしく願いいたします。

追伸です。

ブランチ住人の環太君(小学4年)に、挿絵を描いてと言ったら、気軽に書いてくれました。本当に下書きもなくささっと。



ブランチ山科 (松本)